

## 内視鏡センターにおける臨床工学技士の内視鏡業務

地方独立行政法人 佐世保市総合医療センター

医療技術部 臨床工学室

○浦瀬 憲一、森 雅彦、田邊 義希

### 【はじめに】

2016年9月に日本臨床工学技士会より内視鏡業務指針が出され、高度化する医療機器に対し臨床工学技士（以下CE）が関わり、医療機器の操作と計画的な保守管理、医療機器を介した感染対策、修理費などの経費削減も期待されている。

当院は2017年4月内視鏡センターを新築移転し、年間約4500件（上部消化管内視鏡(GS)約2700件、下部消化管内視鏡(CS)約1400件、内視鏡的逆行性胆道膵管造影(ERCP)約400件）の検査・治療を行っている。また、内視鏡本数は上部内視鏡スコープ34本、下部内視鏡スコープ19本を所有している。当内視鏡センターにおけるCEが参入することによる業務内容をまとめ、役割分担と参入効果を考察した。

### 【体制】

当院の臨床工学室には15名のCEが在籍している。2016年12月よりCE 2名が内視鏡業務に参入した。現在は、内視鏡業務担当CEは合計3名、1名研修中、内視鏡配属定数2名で配置内訳は、1名が専従、2名が他業務と兼務のうち1名が内視鏡担当、残りの1名が他業務、平日の日勤勤務帯に業務を行っている。

### 【業務内容】

内視鏡センターの主な業務は、検査・治療介助、内視鏡洗浄消毒業務、電子カルテにて、記録・会計、機器管理（日常点検・定期点検）、マニュアル作成・改訂、新規機器・物品の説明会開催、指導等であり、3名のCEで対応可能な業務範囲で業務を行っている。

### 〈役割分担〉

現在の看護師とCEの業務の役割分担では、共通業務としては、検査・治療介助、洗浄業務、出張内視鏡等を行っている。CEの業務としては、ESD時の直接介助・ERCPの直接介助補助、機器の保守・管理、機器トラブルの一次対応、RFA時の介助・機器操作、検査・治療の動画管理、停電作業時の対応等を行っている。看護師の業務としては、鎮静後の観察及び点滴管理、検査治療説明、説明同席とその後の対応、検査治療後の患者指導等を行っている。

〈参入効果〉内視鏡機器のトラブル一次対応をCEが行う事により、修理期間が短縮し修理件数自体も減少した。これらの結果で大幅な費用削減ができた。また、ESDの介助は、従来は不特定の看護師が交代で実施していたが、現在は常に専任のCEが実施しているため治療介助技術の向上が図れた。内視鏡センター内にCEが参入することにより、役割分担を確立させることで内視鏡センター内スタッフ業務負担軽減に繋がった。

### 【展望】

現在では、内視鏡関連機器全体の保守点検で保守管理が確立してきた。また、検査治療介助の確立も目指していきたい。その為にも、内視鏡担当CEの人員の増加が必要である。

また、物品管理業務に行き届いてない為、今後物品管理業務の確立を目指したい。

夜間・休日の呼び出し対応も、条件付きではあるが開始したので確立を目指したい。

### 【結語】

内視鏡関連業務で我々CEの役割は益々高まっていく分野である。今後、業務を確立し関わられるメンバーを増やしていくと共に、内視鏡関連専門臨床工学技士などを取得し、内視鏡のスペシャリストとして質の高い安全な医療の提供に貢献したい。